

# 2020年12月期 決算補足説明資料

2021年2月15日

株式会社HANATOUR JAPAN



東証マザーズ コード 6561

# サマリー

---

2020年12月は前年同期比85.6%減収 21億円営業損失  
為替差損449百万円を計上し25億円経常損失

---

新型コロナウイルス感染症の影響による減収減益  
収束時期は依然として不透明

---

SNSを活用した在留外国人への営業強化  
海外大手有力サイトとのAPI連携推進

---

インバウンド実証事業及びオリンピック需要取り込みの準備

---

## 2020年12月期 実績サマリー

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による低迷に加え為替差損（449百万円）が発生

	2019/12		前期比			
		構成比	2020/12	差額	増減率	構成比
売上高	6,593	100.0	948	△ 5,645	△ 85.6	100.0
営業利益	270	4.2	△ 2,186	△ 2,456	-	△ 230.7
経常利益	△ 369	△ 5.6	△ 2,529	△ 2,161	-	△ 266.8
親会社株主に帰属する 当 純 利 益	△ 765	△ 11.6	△ 2,861	△ 2,097	-	△ 301.8
1株当たり当期純利益	△ 70.33		△ 262.75			
1株当たり配当金	20.00		-			
為 替 レ ー ト	2019.12.4Q		2020.12.4Q			
JPY/100KRW	9.46		9.52			

## 2020年12月期 損益計算書

韓国ウォン安による為替評価損（営業外費用） 減損損失・構造改善費用を特別損失に計上

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2019/12		前期比				売上原価
	2019/12	構成比	2020/12	増減	伸率	構成比	・バス事業：△1,123百万円 ・免税事業：△306百万円
売上高	<b>6,593</b>	100.0	<b>948</b>	△ 5,645	△ 85.6	100.0	
売上原価	<b>2,184</b>	33.1	<b>578</b>	△ 1,606	△ 73.5	61.0	
売上総利益	<b>4,409</b>	66.9	<b>369</b>	△ 4,040	△ 91.6	39.0	
販管費	<b>4,138</b>	62.8	<b>2,556</b>	△ 1582	△ 38.2	269.6	
うち人件費	<b>1,407</b>	21.3	<b>791</b>	△ 616	△ 43.8	83.5	
営業利益	<b>270</b>	4.2	△ <b>2,186</b>	△ 2,456	-	△ 230.7	
経常利益	△ <b>369</b>	△ 5.6	△ <b>2,529</b>	△ 2,160	-	△ 266.8	
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ <b>765</b>	△ 11.6	△ <b>2,861</b>	△ 2,096	-	△ 301.8	
							<b>販管費</b> ・旅行事業：△247百万円 ・バス事業：△147百万円 ・免税事業：△1,003百万円 ・ホテル事業：△181百万円 （札幌大通ホテルの販管費 +319百万円）
							<b>営業外損益</b> ・コロナ雇調金等 助成金 186百万円 ・為替差損 449百万円
							<b>特別損失</b> ・構造改善費用 78百万円 ・店舗閉鎖引当 23百万円 ・減損損失 196百万円

## 2020年12月期 セグメント別

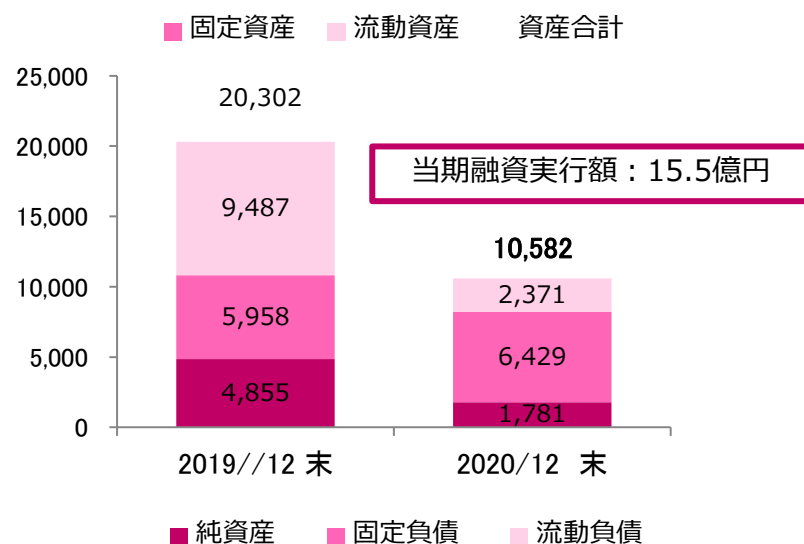
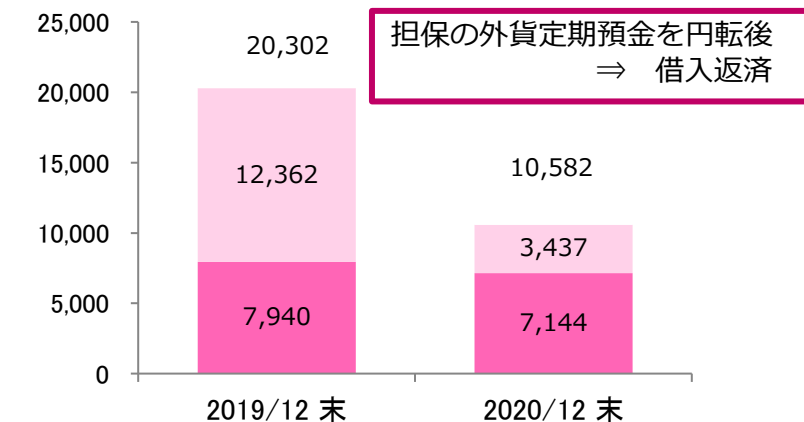
単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2019/12	2020/12	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅行事業	売上高 セグメント利益 利益率	1,976 443 22.5	140 △ 355 —	△ 1,835 △ 799 —	△ 92.9 — —	14.8 16.2 —
バス事業	売上高 セグメント利益 利益率	2,026 139 6.9	199 △ 416 —	△ 1,826 △ 556 —	△ 90.2 — —	21.0 19.0 —
免税販売店事業	売上高 セグメント利益 利益率	1,535 △ 22 —	103 △ 143 —	△ 1,431 △ 121 —	△ 93.3 — —	10.9 6.5 —
ホテル等施設運営事業	売上高 セグメント利益 利益率	1,912 171 9.0	570 △ 942 —	△ 1,341 △ 1,113 —	△ 70.2 — —	60.1 43.1 —
その他	売上高 セグメント利益 利益率	196 △ 48 —	44 3 6.8	△ 152 52 —	23.5 — —	4.6 △ 0.1 —
小計	売上高 セグメント利益 利益率	7,646 683 8.9	1,058 △ 1,854 —	△ 6,588 △ 2,537 —	△ 86.2 — —	111.6 84.8 —
調整等	売上高 セグメント利益 利益率	△ 1,053 △ 412 —	△ 110 △ 332 —	942 80 —	△ 89.6 — —	△ 11.6 15.2 —
合計	売上高 営業利益 利益率	6,593 270 4.1	948 △ 2,186 —	△ 5,645 △ 2,457 —	△ 85.5 — —	100.0 100.0 —

## 2020年12月期 貸借対照表

当期融資実行額 15.5億円 Cash残高 30億円 外貨定期預金の円転（為替リスク解消）

単位：百万円（百万円未満切捨て）



流動資産	3,437	(△8,924)
■ 現金及び預金	3,026	(△7,686) 外貨定期△7,816
■ 売掛金	43	(△798)
■ その他流資	156	(△301) 消費税還付△253

固定資産	7,144	(△795)
■ 有形固定資産	5,630	(△723) 以外-事業譲渡、減損
■ 無形固定資産	69	(△95) 以外-事業譲渡、減損

流動負債	2,371	(△7,116)
■ 営業未払金	11	(△325)
■ 短期借入金	1,413	(△6,282) 外貨担保の借入返済 他
■ リース債務	260	(△145) 以外-事業譲渡による減少

固定負債	6,429	(+470)
■ 長期借入金	1,364	(+880)
■ リース債務	4,933	(△252) 以外-事業譲渡による減少

純資産	1,781	(△3,073)
■ 資本金	1,022	
■ 資本剰余金	966	
■ 利益剰余金	△39	(△3,079) 配当△217 当期利益△2,861

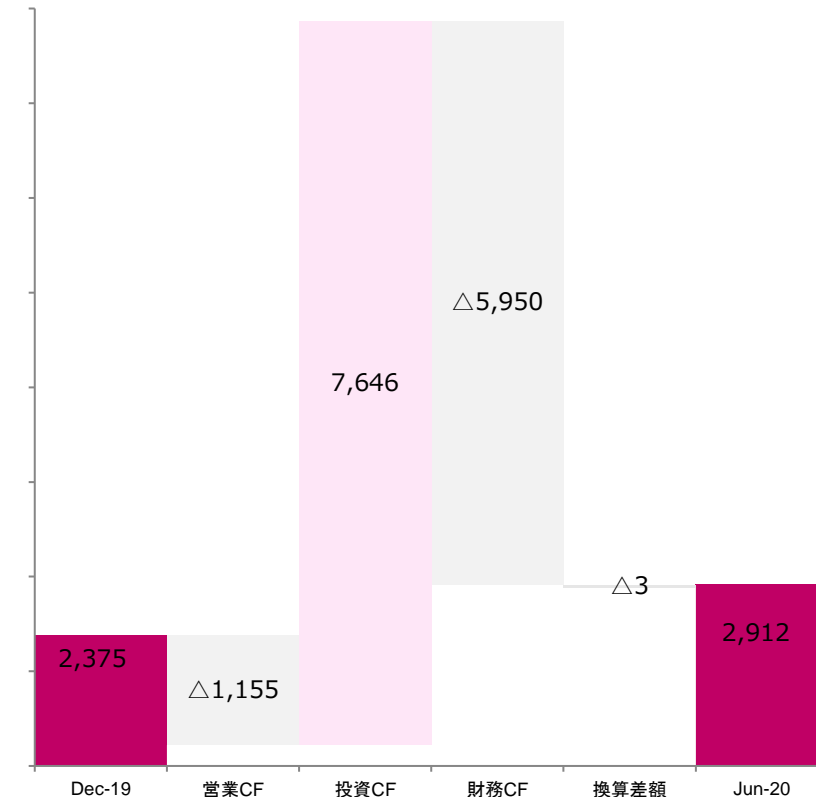
## 2020年12月期 CF計算書

資金調達（金融機関融資）1,550百万円 大森ホテルML料 一部敷金充当 京都敷金支払

## CF計算書

単位：百万円（百万円未満切捨て）

(百万円)



+537

※百万円未満切捨て

## 営業CF

△1,155

■ 営業損失	△2,186 +償却費468=△1,718
■ 営業債権債務	530
■ 消費税還付	99 料大通 建物に係る消費税

## 投資CF

7,646

■ 定期預金 解約	7,816 外貨定期預金 解約による円転
■ 敷金保証金	282 大森ホテル賃料充当
	△ 284 京都新規ホテル 敷金支払

## 財務CF

△ 5,950

■ 短・長借入金	△ 5,340 新規借入 1,550
	返済 △6,890
■ リース・割賦債務	△ 292
■ 配当	△ 217 配当支払い

## ◆ 資金調達

・ 1,550

金融機関融資 短期500 長期1,050

## ◆ 外貨定期預金の円転によるcash捻出

・ 1,344

外貨定期預金 解約円転7,816M (投資CF)

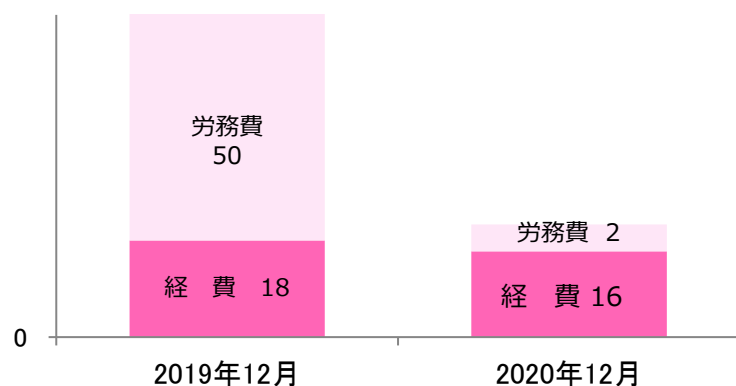
短期借入金 返済6,472M (財務CF) による捻出

## 2020年12月期 固定費の削減

## 構造改革により1カ月あたり116百万円の固定費を削減

## 1ヶ月あたりの売上原価（固定費）バス事業

単位：百万円（百万円未満切捨て）



## 1ヶ月あたりの販管費（固定費）

単位：百万円（百万円未満切捨て）

		2019年12月	2020年12月	削減額
HTJ	人件費	52	23	△29
	経費	33	23	△10
子会社	人件費	47	26	△21
	経費	83	68	△15
合計	人件費	99	50	△49
	経費	117	92	△25

削減額：△50百万円/月

+

削減額：△74百万円/月

構造改善による固定費削減額：△124百万円/月

アフターコロナにおける利益率向上目指す

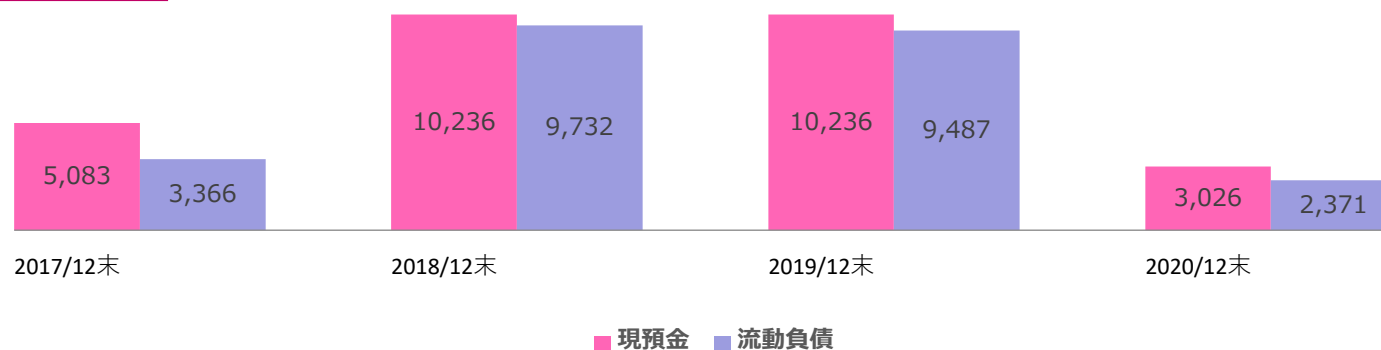


## 2020年12月期 現預金・流動負債、自己資本比率の推移

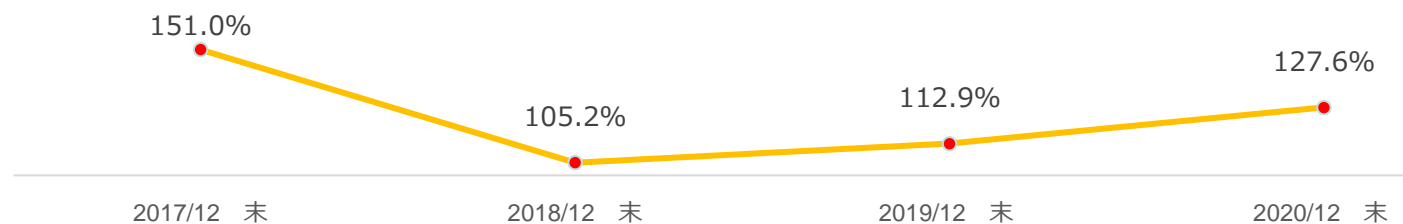
## 外貨定期預金の円転（為替リスク解消） Cash 30億

## 現預金 流動負債

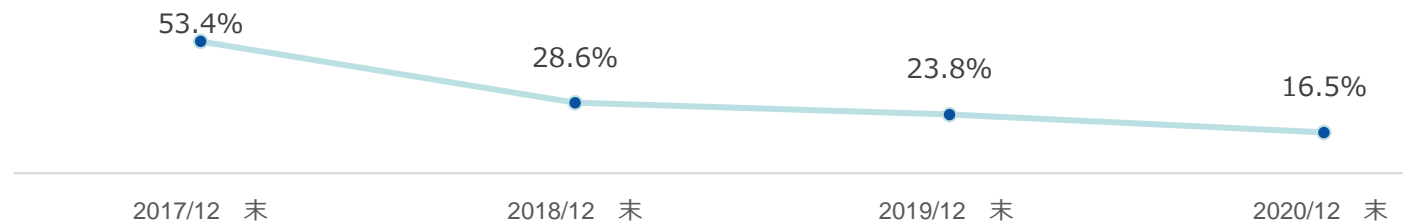
単位：百万円（百万円未満切捨て）



## 現預金／流動負債 比率

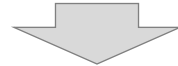


## 自己資本比率

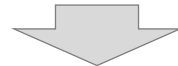


資金調達  
+  
構造改善コストカット  
↓  
当面の運転資金確保

- ・ 厳しい外部環境による営業赤字
- ・ 新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明



業績回復時期が不透明  
今後の経営成績・財務状況に不確実性



GC注記

### 対策①

#### 経営基盤の強化

- ・ 経営効率化
- ・ 営業力強化

### 対策②

#### 財務体質の強化

- ・ 金融機関、親会社へ継続した支援要請
- ・ 状況に合わせ増資の準備検討

## 2021年12月期 業績予想 配当予想について

新型コロナウイルス感染症による観光産業への影響は、ワクチン接種を開始した国が存在するものの、収束時期は依然として不透明であり、今後も厳しい状況が継続することが予想されます。現時点では依然として収束の見通しは立っておらず、業績予想の算定が困難な状況です。

従いまして2021年12月期の連結業績予想及び配当は未定とさせていただき、影響額の算定が可能となった時点であらためて開示させていただきます。

## 2021年12月期 セグメント別重点施策

外部環境の継続を前提とし、当面は必要最低人員を維持しながら市場回復に備える

## 経営効率化

## 営業力強化

## 旅行事業

- ▶ 本社移転、子会社の集約
- ▶ 全社的休業によるコスト削減
- ▶ 雇用調整助成金の活用

- ▶ インバウンド市場回復を見据えた取組み
  - 政府インバウンド実証事業参画準備
  - 観光地紹介動画によるPR開始
  - 海外有力サイトとのAPI連携推進
- ▶ GoTo再開・国内需要を見据えた取組み
  - 在留外国人向けSNS PR活用
  - 在日外資系企業への営業強化

## バス事業

- ▶ 営業拠点の選択と集中
  - 東京・大阪の2拠点へ絞り込み
- ▶ 全社的休業によるコスト削減

- ▶ オリンピック（メディアクルー送迎）需要の獲得
- ▶ クルー送迎便の獲得
- ▶ 国内AGTへの営業強化
- ▶ 国内向け販売強化

ホテル等施設  
運営事業

- ▶ Tマークシティホテル札幌及び札幌大通の一時休業（当面の間）
- ▶ 賃貸料の減免・猶予など交渉
- ▶ 清掃等ランニングコストの見直し

- ▶ 東京大森
  - 航空会社乗務員の宿泊誘致強化
- ▶ 新ブランド「ホテルセンレン京都東山清水（167室）」開業 2021年3月1日（予定）
- ▶ 2021年8月 金沢に開業予定（110室）

# ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経理財務部

TEL 03-6402-4411

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>